

令和7年度 全国学力・学習状況調査の傾向と対策

加古川市立山手中学校

実施日時: 4月14日(理科 生徒質問紙) 4月17日(国語 数学)

<国語・数学・理科における本校生徒の傾向>

①国語

おおむね、全国・兵庫県平均と同等程度の正答率であった。資料を用いて相手の反応を踏まえたりしながら工夫した表現を選ぶ問題は、全国・兵庫県平均より正答率が高かった。しかし「書くこと」の分野・記述式の問題形式において、自分の考えとその理由を書く問題は無回答率が半数近くに上った。

自分の考えを根拠立てて説明する力を伸ばすことが今後の課題である。

②数学

基本的な問題を含め、全体的に全国・兵庫県平均を下回っている。ただ、「数と式」に関しては他の領域に比べて正答率は高くなっている。正答数を見てみると、全国・兵庫県と比べ、「最頻値、中央値」が低いことから、数学を苦手としている生徒が多く、また、同じく「第3四分位数」が低いことから、数学を得意としている生徒が少ないことも分かる。

③理科

基本的な知識を問う問題に関しては全国・兵庫県平均と同程度の正答率だった。しかし、実験結果から考察する問題を苦手とする生徒が多い傾向がある。また、記述式の問いでは無回答も全国平均より多い。基礎知識を使い、応用する力をつけることが課題である。

<生徒質問紙にみる本校生徒の傾向>

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問に対して、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」の回答が全国平均・兵庫県平均より多かったことから、1・2年時に重点的に人権学習に取り組んだ成果だと考えられる。
- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対して、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」の回答が全国平均・兵庫県平均より多かったことから、教師に気軽に相談できる信頼関係が構築できていると考えられる。
- ・自分と異なる意見を考察する力や課題解決に向けて自分で筋道を立てて考える力の育成が必要である。
- ・授業や家庭学習の中で、chromebookなどのICT機器を利用する頻度が少ない。
- ・家庭学習において、「平日30分未満」、「休日1時間未満」、「休日全くしない」生徒の割合が全国平均・兵庫県平均と比べてかなり多い。

<学校の対応方針>

①探究的な学習の推進(思考力・判断力・表現力を伸ばす授業づくり)

総合的な学習の時間等を活用して自ら課題を設定し、情報収集・分析を行い、表現する活動の充実を図る。それにより、多面的・多角的な思考を促すとともに、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の育成を図る。

②ICTの活用推進

授業の中でICT(電子黒板・chromebookなど)を活用する場面の充実を図る。